

手賀沼が海だったころ



平成23年度の事業計画と中間報告

久しぶりの植物観察会、保全とともに進める地域史研究 会長 森 伸之

○歴史講座と特別講演会

計画：

2010年度10回行い、のべ188名が受講した実績を踏まえ、継続実施します。

2011年度のテーマは、前年度に引き続き、松ヶ崎城など手賀沼沿岸あるいは東葛地方の城跡や戦国史の話、東葛地方の歴史といった、柏、手賀沼沿岸地域の歴史を基軸にしなが、時代は古代や近現代も含めていきます。

計画の具体化&実績：

依然震災後の節電などの影響で制約はありますが、今年度も継続実施中です。

既に1回目は5月22日(日)13時より「東葛の戦国大名高城氏」というテーマで、アミューズ柏 会議室Aで行ないましたが、読売新聞の小さな記事が効き、大勢の参加になりました。2回目は6月26日「松ヶ崎城とその周辺」とし、松ヶ崎城を取り巻く地域の歴史や戦国期の勢力分布、遺構の状態などから築城者を含めて類推を行ないました。7月は予定を31日に変更、少し目先を変えて戦争遺跡カメラマンの講演&写真展示としました。

地域史の流れでは、柏や流山などの歴史に詳しい相原正義先生を講師として、9月25日に特別講演会を行なう予定であります。

この特別講演会は、柏市勤労会館にて9月25日(日)13時半から、「手賀沼流域の歴史と生活を語る」というテーマで開催予定です。

○松ヶ崎城跡の植物観察会

計画：

昨年、植物の観察会を実施しようとしたが、実現せず、今年度は実施します。

計画の具体化&実績：

ようやく、この7月16日(土)に柏自然ウォッチャーズのご協力を得て、植物観察会を実施しました。

城跡の稀少植物、チダケサシは既に開花時期を過ぎていましたが、ヤマユリ、オトコエシやオトギリソウといった草花が咲いていました。自然ウォッチャーズの方々にも丁寧に説明して頂き、参加者からは「分かりやすかった、知識があれば、ただきれいなというのとは違う」という、感想が語られました。

○松ヶ崎城跡の環境保全

計画：

2010年度、柏ロータリークラブのご寄付によって、城跡に物置が設置され、用具を置くことができるようになり、これを活用し、廃材のチップ化による木道整備などを柏市や関係団体とタイアップしながら進めます。

計画の具体化&実績：

物置には早速、当会所有の用具などを置いて活用しています。うまくいきませんが、ロータリーと共同で芝、クローバーの種蒔もしました。

既に廃材のチップ化を行っていますので、今後はそれによる木道整備を柏市などとタイアップしながら行っていききたいと思います。



松ヶ崎城跡のキンラン

○松ヶ崎城祭り

計画：

既に昨年第2回目を行い、地域の祭りとして認知されつつあります。前回は柏ロータリークラブにも出店してもらい、出し物の演者も多彩になっています。今年度も柏ロータリークラブなどともタイアップしながら、前回同様出し物と見学会をメインに進めようと思います。

計画の具体化&実績：

11月13日(日)に実施予定

○史跡見学会など

計画：

引続き史跡見学会なども行なっていきます。松ヶ崎城跡の過去の様子、手賀沼との関わりを知るには、昨年度まわった手賀や箕輪のような古い集落を参考にしたり、地域の民間に残る遺物や伝承も手掛かりになるでしょう。今後、ある程度重点を置いて取り組みたいと思います。

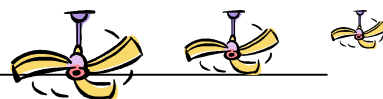
計画の具体化&実績：

秋以降に実施予定

○松ヶ崎城 PR 用 DVD 製作

計画：

紹介 DVD 内容を補足し、改定したものとして再作成 ⇒今年度中に実施予定



扇風機の風に吹かれて古寺の夢

アンコールワットとボロブドゥール

会員 渡辺成子



アンコールワット

カンボジアに関わり始めて8年近くなり、その間アンコールワットにも3回訪れる機会があった。しだいにカンボジアの歴史に触れることも増え、アンコールワット王朝を開いたジャヤヴァルマン2世がジャワと関係があるらしいことを知ると、ジャワの名だたる文化遺産であるボロブドゥールにもぜひとも行ってみたいものだと思うようになった。

そしてついにその機会が訪れた。

ボロブドゥールの印象

ボロブドゥールの丘に近づいて石段を登っていき、回廊を回りながらしだいに上段に登り、仏像が内在するストゥーパが立ち並んでいる様子を見るに至るまでに、アンコールワットには似ていない、という軽い失望感が起こった。インドの外では世界最大といわれる仏教寺院であるから壮大であるに違いはないが、はじめからアンコールワットとの共通点を見出しに行ったわが身には納得感が少なかったのである。解説書にはアンコールワッ

トと深いつながりがあると書かれているし、たしかに回廊の壁のレリーフで参拝者への説諭を意図し、上段に行くにしたがって聖なる場所へと近づいていくという基本構造は同じである。しかし感覚的には共通するものを感じ取れないのである。

その原因を正確に抽出するのは難しいが、アンコールワットのいたるところに見られるアプサラ（天女）がいない。つまり女性の



ボロブドゥール寺院

影が薄いことがまず感じられる。そしてここにはラーマヤナも描かれてはいない。

プランバナン寺院での感動

ボロブドゥールに近いもうひとつの世界遺産プランバナン寺院群も、せっかくジャワ島に来たからには見ておこう、というほどの意識で行ったのだった。しかし、寺院の前に行くなり大きな石造の寺院群が立

ち上る姿を見て、これはアンコールワットにとっても良く似ているのではないかと驚いてしまった。中を見て回ると、いたるところ、アプサラではないが美しい女人像であふれ、ラーマヤナが優れた彫刻で表されている。そう、こっちこっち、と類似のあれこれを見出しては胸に落ちるものがあったのである。

アンコール王朝の成り立ち

アンコール王朝の開祖はジャヤヴァルマン2世である。ジャヤヴァルマン2世はジャワのサイレンドラ宮廷に住

んでいた王子だったという。そしてカンボジアにサイレンドラ王朝の文化芸術を持ち帰り、近隣の王を次々に打ち破って勢力を上げ、ついに西暦790年にカンブジャ王国の王となった、と。

ここにはジャヤヴァルマン2世がどここの出身で、なぜ遠くジャワに行っていたのか、いつ行ったのかをうかがわせるものは何もなく、ジャワの関わりがあつて王国の形成がされたことを言っているのに尽きる。このような流



プランバナン寺院

れを読むと、日本の皇室の系図の出発点となっている継体天皇が、当時新たに朝鮮半島から渡ってきた人はないかという説が思い起こされる。

ではサイレンドラ王朝とはどのようなものだったのか。8世紀中ごろにボロブドゥール寺院を建て、まもなく滅びたといわれているが、詳しくはわかっていない。一方プランバナン寺院の方はヒンドゥー教国のサンジャヤ王朝により、9世紀中ごろに建立されたといわれる。サンジャヤ王朝の王がサイレンドラ王朝から妻を迎えているので、仏教国とヒンドゥー教国の間に壁はなかったか低かった。プランバナン寺院群の中に仏教的寺院もある。

ここで想像力を飛ばせるとどのような物語が成立しうるのだろうか。

ジャヤヴァルマン2世に関するジャワ側の資料はないが、カンボジアから渡って行った人ではなく、そもそもジャワの人だったと想像する。サイレンドラ宮廷と縁はあったかもしれないが少なくとも王位継承者ではなく、故国を出て行くのに支障がなかった人物であったのだろう。そして何ゆえか仏教ではなくヒンドゥー教を掲げて現インドシナ半島中央部を平らげに行ったと考える。

ヒンドゥー教の主神の一つが破壊と創造を象徴とするシヴァ神であることを思い起こしてみると、よりしっくりする場面ではある。(ただしアンコールワットではジャヤヴァルマン2世は宇宙の維持を象徴とするヴィシュヌ神になぞらえられている。)

このさいジャワからカンボジアまでの経路は水路と考えよう。ジャワ島からスマトラ島、マレー半島を西にして北上すればメコン川河口に到達し、遡上してサップ川、トンレサップ湖と進めば、終着点がアンコールワットの地である。

ジャヤヴァルマン2世が遺したものは

ジャヤヴァルマン2世はいきなりアンコールワット寺院を建てたのではなく、その礎を築いた人である。アンコールワット寺院はジャヤヴァルマン2世の300年ほど後のスーリヤヴァルマン2世によって建てられたヒンドゥー教寺院である。

ではジャヤヴァルマン2世がどこを本拠地にしたかと言えば、アンコールワットの南東15Kmでよりトンレサップ湖岸に近いロリュオスである。現在ロリュオス遺跡として残っているものは後の時代のものであり、ジャヤヴァルマン2世がどのようなものを建造したのかはわからない。

その後ジャヤヴァルマン2世はロリュオスから北西45Kmのプノンクレーン高原に移り、そこで宇宙の主である王として即位式をしたという。当時の寺院がいくつか残っている。アンコールの寺院に使われた砂岩はプノンクレーン高原のものというが、このことがジャヤヴァルマン2世がこの地を選んだ理由につながるのかどうか。

呼び起された興味

今やカンボジアでは全く影の薄いヒンドゥー教であるが、ジャヤヴァルマン2世の世にもその後の時代にも

強い力を持った世界観だった。また仏教も力を持った時があったが、現在のカンボジアとは違って大乘仏教だった。その時々には人々はあるような世界観と行動原理を持っていたのか。

カンボジアの古い歴史を伝えているのはあちこちの寺院に残された碑文である。いろいろな本を読んでもその断片を伝えているのみなので、たとえ翻訳ではあっても碑文の全文を読んでみたい。特にジャヤヴァルマン2世に関する謎を確認するためのものを、いつか読んでみたいものだ。

ラーマヤナとマハーバータはなぜインド、東南アジアの人々の心をこんなにも掴んでいるのだろうか。遺跡の壁画、舞踊、人形劇、影絵芝居と、繰り返し接する機会があると、単に物語の展開ではなく、その底に流れている普遍的な価値観がどのようなものなのかに関心が向いてきた。

ロリュオスに行ったら湖岸とどの位近いのかを確かめてみたい。プノンクレーン高原に行けばジャヤヴァルマン2世にまつわる何かが実感としてつかめるだろうか。



上がアンコールワット壁面の女神像。左がプランバナン寺院の壁面にある神像。女性ではないがとても女っぽい。衣装や持物の詳細を知るとおもしろいだろう。

紀行 織田宗家七代が眠る城下町 上州小幡

会員 山野辺恭夫

群馬県甘楽町にある織田宗家七代の墓や小幡藩庁跡などを見学しに6月19日に行きました。甘楽町は上信越道・富岡インターから4kmの、きれいな処でした。

織田信長の次男・信雄(のぶかつ)が大坂の陣の戦功により、家康から小幡藩2万石を与えられ七代(1615~1767)続き、八代目に天童藩に移封され明治まで続いたそうです。

写真1にある崇福寺(そうふくじ)にある墓石は、以前、1個づつ上屋がついていたとのことですが、今は荒れていました。寺は再々の火災で今は小さいですが、七代の位牌が保存されていました。



写真1：崇福寺にある織田宗家の墓石

小幡藩庁跡では、大名庭園「楽山園」など整備中でした。



写真2：小幡藩庁跡



写真3：藩庁入口の石組み

大手門から城までの通りの左右にあった武家屋敷は、現存しませんが、別の場所には残っています。写真4の長屋塀のある大通りの左側は城内、右側には、元勘定奉行家(庭を公開)があります。



写真4：長屋塀のある大通り

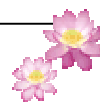


写真5：武家屋敷跡の塀



写真6：元勘定奉行家入口

船橋の「飯盛り大仏」



船橋市の無形民俗文化財となっている「飯盛り大仏」の習俗で有名な不動院の石造釈迦如来坐像。「飯盛り大仏」の由来は悲しい話である。

三番瀬など江戸前の恰好の漁場、船橋浦の漁業権をめぐり、江戸時代には船橋の漁師と近隣の浦安、葛西辺りの漁師はたびたび紛争となった。

特に文政7年(1824)には、一橋家御用の轎を押し立てて来た近隣の漁師と、船橋浦を守ろうとした船橋の漁師が衝突する事件が起きた。相手の船に乗っていた一橋家の侍を船橋の漁師が殴ったため大事件となり、船橋の漁師惣代3名が入牢させられ、そのうち内海仁右衛門、岩田団次郎の2名が死亡した。

その約80年前の津波被害者たちの供養とあわせ、牢内で飯も満足に食べられなかった漁師惣代の苦労を偲んで、大仏の顔に正月28日(明治以降は2月28日)に飯を盛ることが年々続けられ、今日に至っている。

不動院門前にあるその釈迦如来像には、近隣の人たちによってか、いつも花が供えられている。(森)



「飯盛り大仏」の様子

【特別講演会のご案内】 ふるってご参加ください

日時：平成23年(2011)9月25日(日) 13時半~15時半頃

場所：柏市勤労会館 会議室&研修室

(柏市柏下66-1 柏市保健勤労会館2階 TEL: 04-7167-1861)

講師：相原 正義氏(北海道教育大元教授, 中央学院大講師)

テーマ：「手賀沼流域の歴史と生活を語る」 参加費：300円(資料代)

申込&問合せ先 岸事務局長 TEL 04-7131-3036 (当日可 先着80名迄)

主催：手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会 後援：柏市教育委員会

手賀沼が海だったころ

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報
第20号 2011.7.31

発行人：森伸之 編集人：川上利男

年会費2千円 振込先：千葉銀行 柏支店

口座番号3461475